

# ヒドリガモ

*Anas penelope*

カモ科・冬鳥

## 名前の由来

頭と首が赤栗色をしているところから、緋鳥と呼び、そこからヒドリガモとなった。「カモ」は「浮かぶ→かむ→かむ→かむ→かも」だとする説、「雁（ガン）→かむ→かも」だとする説がある。漢字名：緋鳥鴨



ヒドリガモ（オス）

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）49cm。中型のカモでくちばしは短く、首も短い。水上では体を高く保っている。オスの額から頭頂は黄白色で、頭部から首は茶褐色、目の後方に緑色光沢を持つ個体もいる。胸はぶどう褐色で体のほかの部分は灰色、尾の下の部分は黒い。雨覆（翼の上面中程広い部分の羽）は白くて飛翔中に目立つ。くちばしは鉛色。

メスは褐色で他の種のメスより褐色味が強く、腹部は白い。飛翔中、翼鏡（翼の上面中程の後縁にある金属光沢をした羽）は緑色で、雨覆（翼鏡前方上面の羽）は灰褐色。翼鏡との境界に白い線がある。

声：割合よくなく鳥で、オスは水面に浮かびながら「ピュウイー、ピュウイー」と口笛のような高い声で鳴く。メスは「グワー、グワー」という低くて濁った声で鳴く。

類似種と区別点：アメリカヒドリ。

アメリカヒドリのオスの額から頭頂は白く、顔（頬）は灰色で、目の後方には緑色部がある。メスは頭部がやや灰色味

が濃く、三列風切（翼の最も内側後縁の羽）外縁の白色は幅が広くて明瞭であるといわれる。



ヒドリガモのオス(右)とメス



アメリカヒドリのオス。

頭が白く、目の後は光沢のある緑色

## 生息環境・分布

河川、ダム湖、湖沼、内湾に生息する。十勝には10～4月にくる冬鳥。

分布：ユーラシア大陸の高緯度地方に広く繁殖分布し、冬は同大陸南部、アフリカ大陸西部、東部に渡って過ごす。

日本では全土に冬鳥として渡来して越冬する。

冬鳥。河川下流部や海岸に近い湖沼に生息する。渡りの時

期には内陸のダム湖などにも飛来する。

十勝では冬鳥として10月に河川や湖沼に飛来し普通に見られる。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
ユーラシア高緯度(繁殖期)												

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類

## 食性・他生物との関わり

草の葉や実を食べる。

冬は浅い湖上や川の流心部に出て、泳ぎ回りながら水面でついでむ。日中に盛んに採食する。

内陸の湿地で歩きながら草の葉を引きちぎって食べたり、実をついでむで食べたりもする。

また他の淡水カモ類に比べ海に出る傾向が強く、海面をついでむ。首を水中に突っ込んで逆立ちしたり、あるいは海辺の石の上を歩いたりして、青のりなどの藻類を好んで食べるとする。

猛禽類などに捕食される。

## 繁殖生態

日本では繁殖せず、ユーラシア大陸の高緯度地方で繁殖する。

繁殖期は4～5月で、一夫一妻で繁殖する。

冬の群れの中で、つがい作りのためのオスのグループディスプレイ（他の個体に対する誇示のための行動や動作）が見られる。（→興味深い話の項参照）

巣は水辺の草むらや藪の下に浅い皿形に作り、草の葉や茎を敷くという。作るのはメスのみで、産座に自分の綿羽を敷く。

6～12個の卵を産み、メスのみが卵を抱いて、24～25日くらいでヒナがかえる。

ヒナは体が乾くとすぐ巣を離れ、40～45日ほど親の世話を受けた後、独立するという。



ヒドリガモのつがい。北に渡ってから繁殖する

## 興味深い話

■標識調査で17年1ヶ月生存という記録がある。

■ヒドリガモは主に水面で採食するが、しばしば潜水ガモやハクチョウなど水深の深くの水草を食べる種の周りに集まって、浮き上がるものを拾ったり直接奪い取ったりもする。

■ヒドリガモの短いくちばしは草を引きちぎるのに適した形をしているといわれ、引きちぎる力も他の淡水カモ類より強いという。

■海苔の養殖に被害を与えることがあるという。

■冬に、群れの中で見られるオスのグループディスプレイ（他の個体に対する誇示のための行動や動作）では、首を縮めてくちばしを斜め上に向け「ピウッ」と叫びながら翼の先を持ち上げ、翼にある白紋を見せるのだという。このディスプレイはしばしばオス同士の脅しのディスプレイとしても使われる。

■十勝地方のアイヌ語では、カモ類一般（特にマガモ）を「ウォルンチカブ＝水の中にいる鳥」という。



何かに驚き一斉に飛び立つヒドリガモの群れ（4月）

## 配慮事項

水草などのある開放水面が必要。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）  
「原色日本野鳥生態図鑑（水鳥編）」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000  
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、（財）日本野鳥の会 1982（1994

増補版7刷）

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「進化 ガンカモ類の多様な世界」D. Lack 著、阿部直哉ほか訳、思索社 1976

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ